4 運用・保守 編

本装置の運用および保守について説明します。

日常の保守（→342ページ）……本装置を日常使う上で確認しなければならない点やファイルの管理、クリーニングの方法について説明します。

保守ツール（→347ページ）……本装置専用の保守ツールの使い方について説明します。

システム診断（→352ページ）……本装置専用の診断ユーティリティの使い方について説明します。

障害時の対処（→355ページ）……故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因の確認方法やその対処方法について説明しています。

移動と保管（→408ページ）……本装置を移動・保管する際の手順や注意事項について説明します。

ユーザーサポート（→409ページ）……本装置に関するさまざまなサービスについて説明します。サービスはNECおよびNECが認定した保守サービス会社から提供されるものです。ぜひご利用ください。

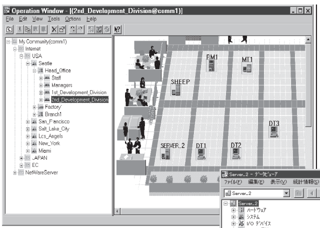
日常の保守

本装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

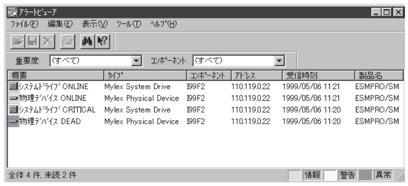
ESMPROでチェックする画面



統合ビューア



データビューア



アラートビューア

ステータスランプの確認

本装置の電源をONにした後、およびシャットダウンをして本装置の電源をOFFにする前に、本装置前面にあるランプや、2.5インチディスクベイに搭載しているハードディスクドライブのランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については「ハードウェア編」の102ページをご覧ください。万一、本装置の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

バックアップ

定期的に本装置のハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。本装置に最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください(75ページ参照)。

RAIDシステムを構築しているシステムでは、RAIDシステムのコンフィグレーション情報のバックアップをとっておいてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。コンフィグレーション情報は「ソフトウェア編」またはEXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメントを参照してバックアップをとってください。

クリーニング

本装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

警告

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- CD-RW/DVD-ROM装置の内部をのぞかない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

本装置のクリーニング

本装置の外観の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。

重要

- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、本装置背面のコネクタ、本装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 本装置の電源がOFF(POWERランプ消灯)になっていることを確認する。
2. 本装置の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 本装置の汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。
8. 乾いた布で本装置背面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取る。

キーボード/マウスのクリーニング

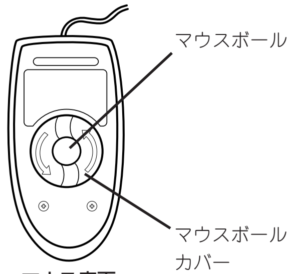
キーボードは本装置および周辺装置を含むシステム全体の電源がOFF(POWERランプ消灯)になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。
マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本装置の電源がOFF(POWERランプ消灯)になっていることを確認する。
2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。
3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

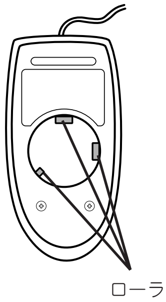
   汚れがひどいときはぬるま湯または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。
4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

   汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。
5. マウスボールをマウスの中に戻す。

   手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。
6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。



マウス底面



運用・保守編

CD/DVD-ROMのクリーニング

CD/DVD-ROMにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、CD/DVD-ROMのクリーニングを行います。

1. 本装置の電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認する。
2. CD-RW/DVD-ROM装置前面のCD/DVD-ROMトレーイジェクトボタンを押す。

   トレーがCD-RW/DVD-ROM装置から出てきます。
3. CD/DVD-ROMを軽く持ちながらトレーから取り出す。

   重要

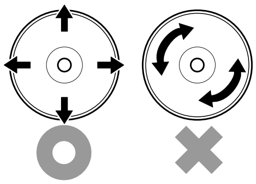
   CD/DVD-ROMの信号面に手が触れないよう注意してください。
4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

   重要

   CD-RW/DVD-ROM装置のレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。
5. トレーをCD-RW/DVD-ROM装置に戻す。
6. CD/DVD-ROMの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

   重要

   CD/DVD-ROMは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、CD/DVD-ROM専用のクリーナであることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、本装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れはファイルのバックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。クリーニングの時期やクリーニングの方法、および使用するテープカートリッジの使用期間や寿命についてはテープドライブに添付の説明書を参照してください。

保守ツール

保守ツールは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのツールです。

保守ツールの起動方法

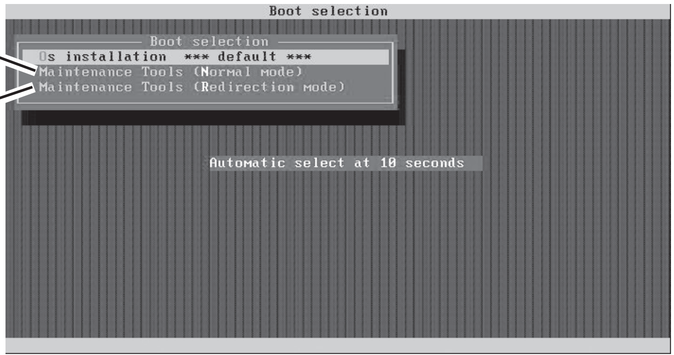
次の手順に従って保守ツールを起動します。

1. 周辺機器、Expressサーバの順に電源をONにします。
2. Expressサーバの光ディスクドライブへ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットします。
3. DVDをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動します。

   DVDから以下のようなBoot selectionメニューが起動します。

Maintenance Tools(Normal mode):
ローカルコンソールで保守ツールを使用する場合に選択します。

Maintenance Tools(Redirection mode):
コンソールレスで保守ツールを使用する場合に選択します。



重要

メニューの初期選択は「Os installation」となっています。Boot selectionメニュー表示後、10秒間操作が行われない場合は、「Os installation」が自動で起動します。

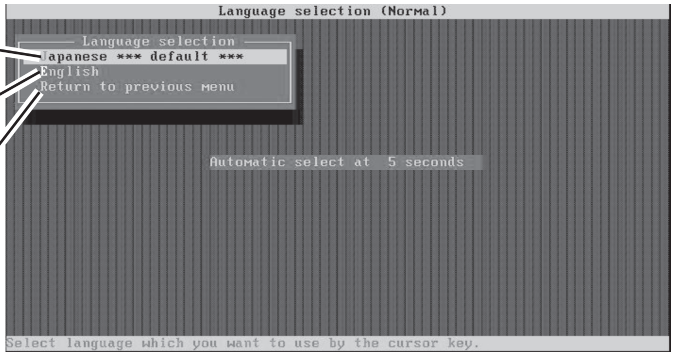
4. ローカルコンソールを使用する場合は「Maintenance Tools(Normal mode)」を、コンソールレスで使用する場合は「Maintenance Tools(Redirection mode)」を選択します。コンソールレスについてはこの後の「コンソールレス」を参照してください。

以下に示すLanguage selection メニューを表示します。

Japanese:
以降のメニューを日本語で表示します。

English:
以降のメニューを英語で表示します。

Return to previous menu:
Boot selectionメニューを表示します。

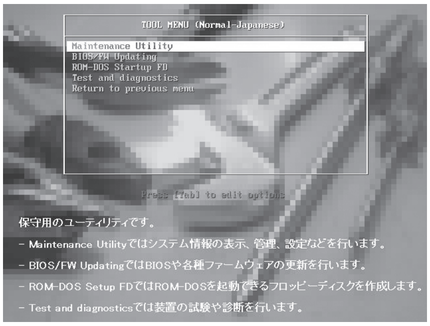


5. 「Japanese」を選択します。

「Japanese」を選択すると次のツールメニューを表示します。

重要

メニューの初期選択は「Japanese」となっています。Language selectionメニュー表示後、5秒間操作が行われない場合は、「Japanese」が自動で起動します。



ローカルコンソールを使用した場合



コンソールレスの場合

6. 各ツールを選択し、起動します。

保守ツールの機能

保守ツールでは以下の機能を実行できます。

- **Maintenance Utility**

Maintenance Utilityではオフライン保守ユーティリティを起動します。オフライン保守ユーティリティは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本製品に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。

重要

オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動するとメニュー中にヘルプ(機能や操作方法を示す説明)がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

－ IPMI情報の表示

IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やIPMI情報のバックアップをします。

本機能により、本製品で起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

－ BIOSセットアップ情報の表示

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

－ システム情報の表示

プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

－ システム情報の管理

お客様の装置固有情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップを行うことで、ボードの修理や交換の際に装置固有情報や設定を復旧できます。

ヒント

システム情報のバックアップ方法については、75ページで説明しています。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

－ システムマネージメント機能

BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- BIOS/FW Updating

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については次のホームページに詳しい説明があります。

『8番街』：http//nec8.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は、配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

重要 **BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。**

- ROM-DOS　Startup FD

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- Test and diagnostics

Test and diagnostics（システム診断）では本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。後述の「システム診断」を参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

コンソールレス

保守ツールは、本装置にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。

重要

- **本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。**
- **コンソールレスでは、「Boot selection」メニュー中の「Maintenance Tools (Redirection mode)」を選択して下さい。その他を選択しても管理PCには表示しません。**

起動方法

起動方法には管理PCと本装置の接続状態により、次の2つの方法があります。

- **LAN接続された管理PCから実行する**
- **ダイレクト接続(シリアルポートB)された管理PCから実行する**

起動方法の手順については「DianaScope」オンラインドキュメントを参照してください。

重要

- **BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-RW/DVD-ROM装置が最初に起動するようになってないと使用できません。**
- **LAN接続は管理用LANからのみ使用可能です。通常は管理用LANは管理用LANポートを使用します。SETUPを起動して「Server」−「BMC LAN Configuration」−「Shared BMC LAN」を[Enabled]に設定すると、LANポート3を管理用LANと共用することができます**
- **ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。**
- **コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディスクが必要になります。**
  フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。

ヒント

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- Serial Port A: [Enabled]
  - Base I/O address: [3F8]
  - Interrupt: [IRQ 4]
- Serial Port B: [Enabled]
  - Base I/O address: [2F8]
  - Interrupt: [IRQ 3]
- BIOS Redirection Port: [Serial Port B]
- Baud Rate: [19.2k]
- Flow Control: [CTS/RTS]
- Console Type: [PC ANSI]

システム診断

システム診断は本装置に対して各種テストを行います。
「EXPRESSBUILDER」の「Maintenance Tools」から「Test and diagnostics」を選択して診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 本装置に取り付けられているメモリのチェック
- プロセッサキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック

重要

システム診断を行う時は、必ず本装置に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。

ヒント

ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

システム診断には、本装置に直接接続されたコンソール(キーボード)を使用する方法と、シリアルポート経由で接続されている管理PCのコンソールを使用する方法(コンソールレス)があります。
それぞれの起動方法は次のとおりです。

重要

「保守ツール」では、コンソールレスでの通信方法にLANとCOMポートの2つの方法を記載していますが、コンソールレスでのシステム診断ではCOMポートのみを使用することができます。

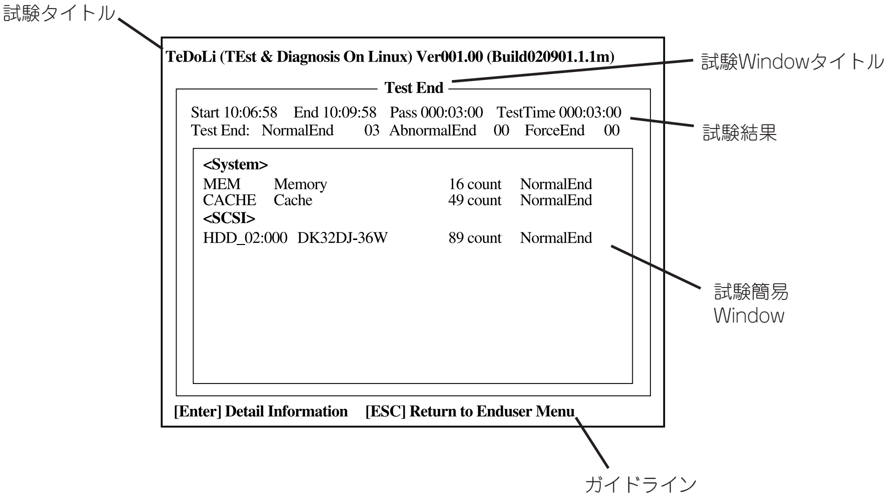
1. シャットダウン処理を行った後、本装置の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本装置に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、本装置の電源をONにする。
4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを使ってシステムを起動する。
5. 本装置のコンソールを使用して起動する場合は「Maintenance Tools(Normal mode)」を、コンソールレスで起動する場合は「Maintenance Tools(Redirection mode)」を選択する。

チェック

システムによっては、Language selectionメニューが表示される場合があります。
Language selectionメニューが表示された場合は「Japanese」を選択します。

6. TOOL MENUの「Test and diagnostics」を選択する。

Test and diagnosticsの「End-User Mode」を選択してシステム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。

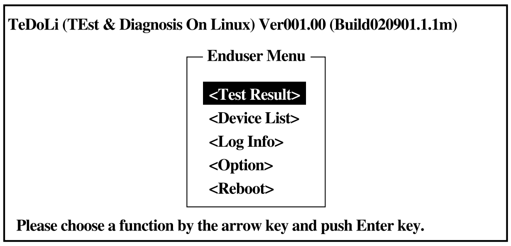


試験タイトル:	診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。
試験Windowタイトル:	診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。
試験結果:	診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。
ガイドライン:	Windowを操作するキーの説明を表示します。
試験簡易Window:	診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易Windowの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。
エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録してお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

以下のエンドユーザーメニューを表示します。



<Test Result>:	前述の診断終了時の画面を表示します。
<Device List>:	接続されているデバイス一覧情報を表示します。
<Log Info>:	試験ログを表示します。 試験ログをフロッピーディスクへ保存することができます。 フロッピーディスクへ記録する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、<Save(F)>を選択してください。
<Option>:	オプション機能が利用できます。
<Reboot>:	システムを再起動します。

8. 上記エンドユーザーメニューで<Reboot>を選択する。

   本装置を再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。

9. EXPRESSBUILDERを終了し、光ディスクドライブからDVDを取り出す。

10. 本装置の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。

11. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。

12. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

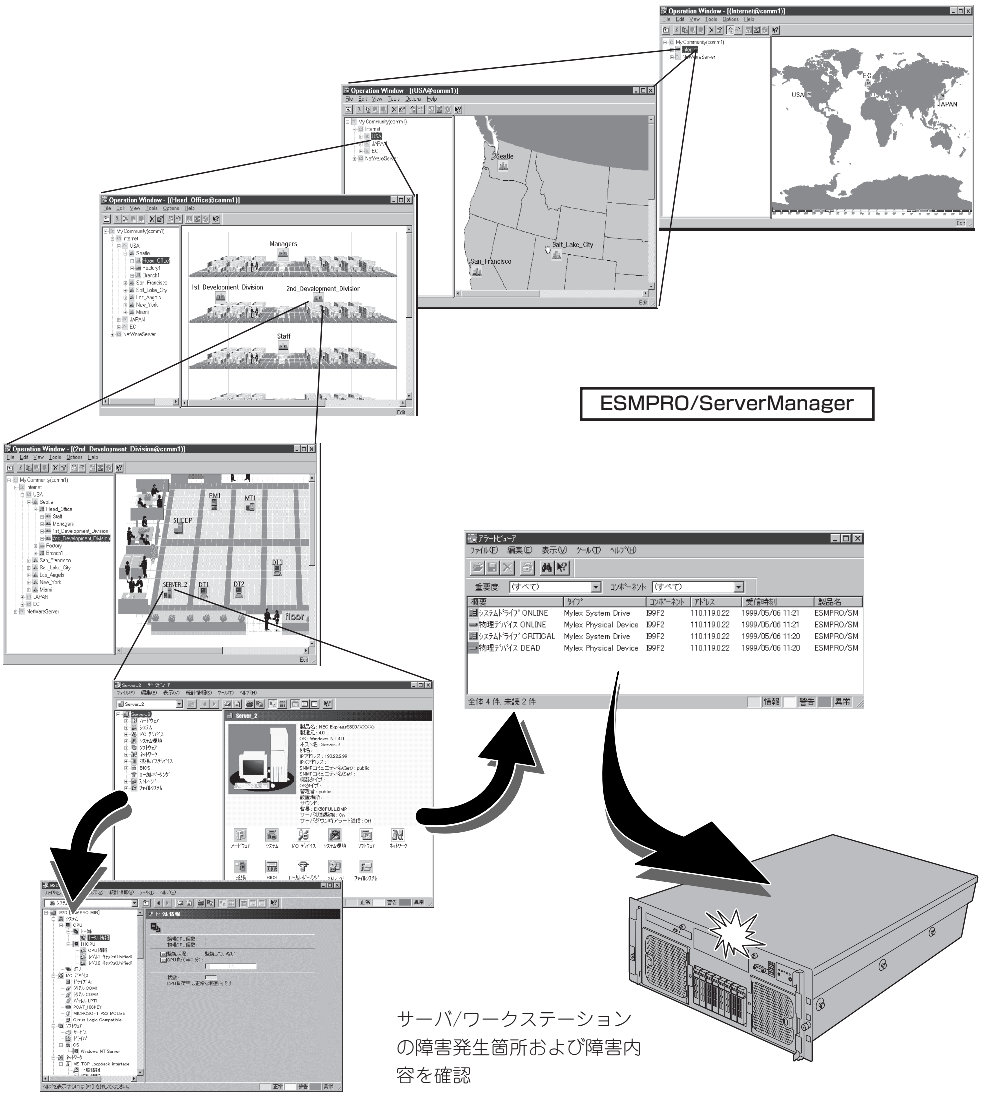
障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。
障害発生個所や内容の確認ができたら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

本装置になんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

本装置の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます(場合によってはその対処方法も表示されます)。画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法については「ハードウェア編」の132ページをご覧ください。

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
          :
WARNING
0B60: DIMM group #1 has been disabled.
          :


Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

メモリの故障を示すメッセージ(例では
メモリ#1が故障した場合の表示)

ヒント

「ハードウェア編」に記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧は本装置単体のものです。ベースボードに接続されているオプションのSCSIコントローラボード、RAIDコントローラに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付のマニュアルを参照してください(本装置のベースボードにSCSIコントローラが搭載されている場合はこれらのメッセージも含まれています)。RAIDコントローラについては、この後の「トラブルシューティング」の「RAIDシステム、RAIDコントローラについて」を参照するか、RAIDコントローラに添付の説明書を参照してください。

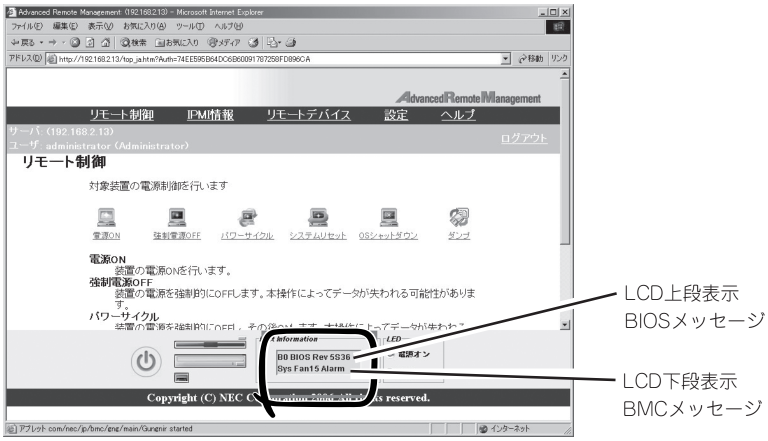
ランプによるエラーメッセージ

本装置の前面や背面、ハードディスクドライブのハンドル部分にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな?」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については「ハードウェア編」の102ページをご覧ください。

仮想LCD上のエラーメッセージ

EXPRESSSCOPEエンジン 2(BMC)Webブラウザ画面上で、仮想LCDのエラーメッセージを確認できます。上段と下段それぞれのエラーメッセージの一覧と障害内容、その対処方法を示します。
エラーメッセージ一覧のプロセッサやメモリ、ファンなどのデバイスに関するエラーメッセージとデバイスの搭載位置は154〜158ページの図のように対応しています。

仮想LCDについては、EXPRESSSCOPEエンジン 2ユーザーズガイドを参照してください。



LCD上段表示メッセージ

- Statusランプが緑色に点灯しているとき

メッセージ	
	意　味
対処方法	
Prepare To Boot	
	POSTが正常に終了しました。
エラーではありません。	

● Statusランプが緑色に点滅しているとき

メッセージ	意　味	対処方法
CPU Reconfigured	プロセッサが縮退した状態で起動した。	BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Mem Reconfiguraed	メモリが縮退した状態で起動した。	BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Mem(xx) D(y) Unc Err	メモリミラー構築時、下記に示されたDIMMで訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。 (xx)： エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボードを示します。 AB=メモリボードA もしくはメモリボードB CD=メモリボードC もしくはメモリボードD (y)： エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボード上のスロット番号を示します。	継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているDIMMの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているDIMMを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
Mem(x) DIMM(y) C Err	下記に示されたDIMMで訂正可能なエラーが発生した。 (x)：エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボードを示します。 A=メモリボードA B=メモリボードB C=メモリボードC D=メモリボードD (y)：エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボード上のスロット番号を示します。	継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているDIMMの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているDIMMを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
PCISlot(x) C Err	PCIスロット(x)に取り付けたPCIカードにて訂正可能なエラーが発生した。	継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているPCIカードの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているPCIカードを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。"
PCIE C Err(x)	PCI Expressバスで訂正可能なエラーが発生した。	継続して本装置の運用が可能ですが、本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
Chipset C Err (x)	チップセットの訂正可能なエラーが発生した。	継続して本装置の運用が可能ですが、本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	
	意　味
対処方法	
FBD CH(x) C Err	
	下記に示されたメモリボードにて訂正可能なエラーが発生した。 (x)：エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボードを示します。 1=メモリボードA 2=メモリボードB 3=メモリボードC 4=メモリボードD
継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているメモリボードの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているメモリボード上のDIMMの取り付け状態を確認してください。 4. 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
Sparing FailOver	
	メモリスペアリング構築時、DIMMにて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているDIMMの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているDIMMを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
Mirror FailOver	
	メモリミラー構築時、DIMMにて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
Mirror B1 Fail	
	メモリミラー構築時、メモリボードAまたはメモリボードBに取り付けたDIMMにて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェイルオーバーとなった。
Mirror B2 Fail	
	メモリミラー構築時、メモリボードCまたはメモリボードDに取り付けたDIMMにて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェイルオーバーとなった。
継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているDIMMの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているDIMMを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
SB C Err(x)	
	SASライザーボードにて訂正可能なエラーが発生した。
継続して本装置の運用が可能ですが以下を実行してください。 1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. SASライザーボードに接続しているケーブルの取り付け状態を確認してください。 3. SASライザーボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

● Statusランプがアンバー色に点灯しているとき

メッセージ 　　意　味 対処方法
ErrPause in POST
重要なPOSTエラーが発生し、キー入力待ちになっている。あるいは、重要なPOSTエラーが発生したが、強制的にPOSTを終了した。
1. 画面に表示されたPOSTエラーメッセージにより、132ページの表を参照してPOSTエラーメッセージの意味と対処方法を確認する。 2. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。 3. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
Hang in POST
POSTで処理が止まった状態になった。
1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
BIOSRecovery run
システムBIOS ROMに致命的なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
Mem(xx) D(y) Unc Err
下記に示されたDIMMで訂正不可能なエラーが発生した。 (xx)： エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボードを示します。 　　AB=メモリボードA もしくはメモリボードB 　　CD=メモリボードC もしくはメモリボードD (y)： エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボード上のスロット番号を示します。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているDIMMの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているDIMMを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
PCISlot(x) Unc Err
PCIスロット(x)に取り付けたPCIカードにて訂正不可能なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. エラーが発生しているPCIカードの取り付け状態を確認してください。 4. エラーが発生しているPCIカードを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
PCIE Unc Err(x)
PCI Expressバスで訂正不可能なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
Chipset UncErr(x)
チップセットの訂正可能なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
対処方法	
FBD CH(x) Unc Err	下記に示されたメモリボードにで訂正不可能なエラーが発生した。 (x)：エラーが発生したDIMMが実装されているメモリボードを示します。 1=メモリボードA 2=メモリボードB 3=メモリボードC 4=メモリボードD
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. エラーが発生しているDIMMの取り付け状態を確認してください。 4. エラーが発生しているDIMMを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
FSB (x) Unc Err	プロセッサ (x)の内部、あるいは外部バスにて訂正不可能なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
I/O Unc Err (x)	I/Oインタフェースの内部回路で訂正不可能なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
SB Unc Err(x)	SASライザーボードにて訂正不可能なエラーが発生した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. SASライザーボードに接続しているケーブルの取り付け状態を確認してください。 4. SASライザーボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

LCD下段表示メッセージ

● Statusランプが消灯しているとき

<table>
<tr><th>メッセージ</th><th>意　味</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>SMI Timeout</td><td>システム管理割り込み中にタイムアウトが発生した。</td><td>1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>DUMP Request!</td><td>DUMPスイッチが押された。</td><td>OSダンプが完了するまでお待ちください。
ダンプが正常に終了しなかった場合には、以下を実行してください。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>Proc1ThermalTrip</td><td>プロセッサ#1の高温異常により強制的に電源OFFを行った。</td><td rowspan="4">1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
3. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。
4. エラーが発生しているプロセッサを交換してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>Proc2ThermalTrip</td><td>プロセッサ#2の高温異常により強制的に電源OFFを行った。</td></tr>
<tr><td>Proc3ThermalTrip</td><td>プロセッサ#3の高温異常により強制的に電源OFFを行った。</td></tr>
<tr><td>Proc4ThermalTrip</td><td>プロセッサ#4の高温異常により強制的に電源OFFを行った。</td></tr>
<tr><td>Proc1 IERR</td><td>プロセッサ#1で内部エラー(IERR)を検出した。</td><td rowspan="4">1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。
4. エラーが発生しているプロセッサを交換してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>Proc2 IERR</td><td>プロセッサ#2で内部エラー(IERR)を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc3 IERR</td><td>プロセッサ#3で内部エラー(IERR)を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc4 IERR</td><td>プロセッサ#4で内部エラー(IERR)を検出した。</td></tr>
</table>

メッセージ	意味
対処方法	

Proc1 Config Err

プロセッサ#1に未サポートプロセッサ、不正な組合せのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。

Proc2 Config Err

プロセッサ#2に未サポートプロセッサ、不正な組合せのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。

Proc3 Config Err

プロセッサ#3に未サポートプロセッサ、不正な組合せのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。

Proc4 Config Err

プロセッサ#4に未サポートプロセッサ、不正な組合せのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。
4. エラーが発生しているプロセッサを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

Proc1Didn'tStart

プロセッサ#1が起動できなかった。

Proc2Didn'tStart

プロセッサ#2が起動できなかった。

Proc3Didn'tStart

プロセッサ#3が起動できなかった。

Proc4Didn'tStart

プロセッサ#4が起動できなかった。

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。
4. エラーが発生しているプロセッサを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

WDT Power Down

ウオッチドックタイムアウトにより強制電源OFFを行った。

本装置の電源をOnしてください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

WDT Power Cycle

ウオッチドックタイムアウトによりリブートが発生した。

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

WDT Timeout

ウオッチドックタイムアウトが発生した。

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

● Statusランプがアンバー色に点灯しているとき

メッセージ	
	意　味
対処方法	
Proc Missing	
	プロセッサが実装されていない。
1. プロセッサの取り付け状態を確認してください。 2. プロセッサを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
UnexpectedPwLost	
	電源異常が発生した。
保守サービス会社へ連絡してください。	
PowerOnCtrlFault	
	電源異常が発生した。
保守サービス会社へ連絡してください。	
MemA Power Fault	
	メモリボードAの電源回路の異常を検出した。
MemB Power Fault	
	メモリボードBの電源回路の異常を検出した。
MemC Power Fault	
	メモリボードCの電源回路の異常を検出した。
MemD Power Fault	
	メモリボードDの電源回路の異常を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているメモリボードの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生しているメモリボードを交換してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
BB Power Fault	
	ベースボードの電源回路の異常を検出した。
本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
SASR Power Fault	
	SASライザーボードの電源回路の異常を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. SASライザーボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

メッセージ	意　味
Proc1 Power Fault	プロセッサ#1のための電源回路の異常を検出した。
Proc2 Power Fault	プロセッサ#2のための電源回路の異常を検出した。
Proc3 Power Fault	プロセッサ#3のための電源回路の異常を検出した。
Proc4 Power Fault	プロセッサ#4のための電源回路の異常を検出した。
対処方法	1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
BB +1.0V Alm09	1.0V電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.0V Alm02	1.0V電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.5V Alm09	1.5V電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.5V Alm02	1.5V電圧異常（下限）を検出した。
BB +3.3V Alm09	3.3V電圧異常（上限）を検出した。
BB +3.3V Alm02	3.3V電圧異常（下限）を検出した。
BB +5V Alm09	5V電圧異常（上限）を検出した。
BB +5V Alm02	5V電圧異常（下限）を検出した。
BB +12V Alm09	12V電圧異常（上限）を検出した。
BB +12V Alm02	12V電圧異常（下限）を検出した。
BB FSB_VTT Alm09	FSB VTT電圧異常（上限）を検出した。
BB FSB_VTT Alm02	FSB VTT電圧異常（下限）を検出した。
対処方法	1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	
	意　味
対処方法	
BB +1.5VESBAlm09	
	1.5VESB電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.5VESBAlm02	
	1.5VESB電圧異常（下限）を検出した。
BB +3.3VAUXAlm09	
	3.3VAUX電圧異常（上限）を検出した。
BB +3.3VAUXAlm02	
	3.3VAUX電圧異常（下限）を検出した。
BB +3.3Vs Alm09	
	3.3Vs電圧異常（上限）を検出した。
BB +3.3Vs Alm02	
	3.3Vs電圧異常（下限）を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
IO +3.3VAUXAlm09	
	I/Oライザーボードの3.3VAUX電圧異常（上限）を検出した。
IO +3.3VAUXAlm02	
	I/Oライザーボードの3.3VAUX電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.8Vs Alm09	
	I/Oライザーボードの1.8Vs電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.8Vs Alm02	
	I/Oライザーボードの1.8Vs電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.2Vs Alm09	
	I/Oライザーボードの1.2Vs電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.2Vs Alm02	
	I/Oライザーボードの1.2Vs電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.0Vs Alm09	
	I/Oライザーボードの1.0Vs電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.0Vs Alm02	
	I/Oライザーボードの1.0Vs電圧異常（下限）を検出した。
IO +12V Alm09	
	I/Oライザーボードの12V電圧異常（上限）を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. I/Oライザーボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

メッセージ	
	意　味
対処方法	
IO +12V Alm02	
	I/Oライザーボードの12V電圧異常（下限）を検出した。
IO +5V Alm09	
	I/Oライザーボードの5V電圧異常（上限）を検出した。
IO +5V Alm02	
	I/Oライザーボードの5V電圧異常（下限）を検出した。
IO +3.3V Alm09	
	I/Oライザーボードの3.3V電圧異常（上限）を検出した。
IO +3.3V Alm02	
	I/Oライザーボードの3.3V電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.5V Alm09	
	I/Oライザーボードの1.5V電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.5V Alm02	
	I/Oライザーボードの1.5V電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.0V Alm09	
	I/Oライザーボードの1.0V電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.0V Alm02	
	I/Oライザーボードの1.0V電圧異常（下限）を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. I/Oライザーボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
Battery Alm09	
	リチウムバッテリ電圧異常(上限)を検出した。
Battery Alm02	
	リチウムバッテリ電圧異常(下限)を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. ベースボード上にあるリチウムバッテリの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

メッセージ	
	意　味
対処方法	
FP Temp Alm09	
	フロントパネルで高温異常を検出した。
FP Temp Alm02	
	フロントパネルで低温異常を検出した。
BB Temp Alm09	
	ベースボードで高温異常を検出した。
BB Temp Alm02	
	ベースボードで低温異常を検出した。
SASBP Temp C Alm	
	SASライザーボードで温度異常を検出した。
装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
MemA Temp Alm09	
	メモリボードAで高温異常を検出した。
MemA Temp Alm02	
	メモリボードAで低温異常を検出した。
MemB Temp Alm09	
	メモリボードBで高温異常を検出した。
MemB Temp Alm02	
	メモリボードBで低温異常を検出した。
MemC Temp Alm09	
	メモリボードCで高温異常を検出した。
MemC Temp Alm02	
	メモリボードCで低温異常を検出した。
MemD Temp Alm09	
	メモリボードDで高温異常を検出した。
MemD Temp Alm02	
	メモリボードDで低温異常を検出した。
1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。 2. 異常が発生しているメモリボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

メッセージ 　意　味 対処方法
PS1 Temp Alm09 　電源ユニット#1で高温異常を検出した。
PS1 Temp Alm02 　電源ユニット#1で低温異常を検出した。
PS2 Temp Alm09 　電源ユニット#2で高温異常を検出した。
PS2 Temp Alm02 　電源ユニット#2で低温異常を検出した。
1. 電源内部のFANが正常に動作しているか確認してください。 2. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。 3. 異常が発生している電源ユニットの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
Proc1 Therm % 09 　プロセッサ#1の高温異常を検出した。
Proc1 Therm % 02 　プロセッサ#1の低温異常を検出した。
Proc2 Therm % 09 　プロセッサ#2の高温異常を検出した。
Proc2 Therm % 02 　プロセッサ#2の低温異常を検出した。
Proc3 Therm % 09 　プロセッサ#3の高温異常を検出した。
Proc3 Therm % 02 　プロセッサ#3の低温異常を検出した。
Proc4 Therm % 09 　プロセッサ#4の高温異常を検出した。
Proc4 Therm % 02 　プロセッサ#4の低温異常を検出した。
1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。 2. 異常が発生しているプロセッサのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。
AC lost Alm 1 　電源ユニット#1のAC供給に異常が発生した。
AC lost Alm 2 　電源ユニット#2のAC供給に異常が発生した。
1. 異常が発生している電源ユニットのACコード接続状況を確認してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

- Statusランプがアンバー色に点滅しているとき

メッセージ	
	意　味
対処方法	
HDD Fault	
	ハードディスクドライブの異常を検出した。
1. 異常が発生しているハードディスクドライブの取り付け状態を確認してください。 2. ディスクアレイを構成している場合、RAIDレベルによっては1台のハードディスクドライブが故障しても運用を続けることができますが、早急にディスクを交換して、再構築（リビルド）を行ってください。 3. 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	
FAN1 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN1の異常を検出した。
FAN2 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN2の異常を検出した。
FAN3 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN3の異常を検出した。
FAN4 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN4の異常を検出した。
FAN5 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN5の異常を検出した。
FAN6 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN6の異常を検出した。
FAN7 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN7の異常を検出した。
FAN8 Alarm	
	＜警告レベル＞ FAN8の異常を検出した。
異常が発生しているFANの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

メッセージ	意味
対処方法	
BB +1.0V Alm07	＜警告レベル＞ 1.0V電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.0V Alm00	＜警告レベル＞ 1.0V電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.5V Alm07	＜警告レベル＞ 1.5V電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.5V Alm00	＜警告レベル＞ 1.5V電圧異常（下限）を検出した。
BB +3.3V Alm07	＜警告レベル＞ 3.3V電圧異常（上限）を検出した。
BB +3.3V Alm00	＜警告レベル＞ 3.3V電圧異常（下限）を検出した。
BB +5V Alm07	＜警告レベル＞ 5V電圧異常（上限）を検出した。
BB +5V Alm00	＜警告レベル＞ 5V電圧異常（下限）を検出した。
BB +12V Alm07	＜警告レベル＞ 12V電圧異常（上限）を検出した。
BB +12V Alm00	＜警告レベル＞ 12V電圧異常（下限）を検出した。
BB FSB_VTT Alm07	＜警告レベル＞ FSB VTT電圧異常（上限）を検出した。
BB FSB_VTT Alm00	＜警告レベル＞ FSB VTT電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.5VESBAlm07	＜警告レベル＞ 1.5VESB電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.5VESBAlm00	＜警告レベル＞ 1.5VESB電圧異常（下限）を検出した。
BB +3.3VAUXAlm07	＜警告レベル＞ 3.3VAUX電圧異常（上限）を検出した。
BB +3.3VAUXAlm00	＜警告レベル＞ 3.3VAUX電圧異常（下限）を検出した。
BB +3.3Vs Alm07	＜警告レベル＞ 3.3Vs電圧異常（上限）を検出した。
BB +3.3Vs Alm00	＜警告レベル＞ 3.3Vs電圧異常（下限）を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

メッセージ	
	意　味
対処方法	
IO +3.3VAUXAlm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの3.3VAUX電圧異常（上限）を検出した。
IO +3.3VAUXAlm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの3.3VAUX電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.8Vs Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.8Vs電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.8Vs Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.8Vs電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.2Vs Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.2Vs電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.2Vs Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.2Vs電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.0Vs Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.0Vs電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.0Vs Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.0Vs電圧異常（下限）を検出した。
IO +12V Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの12V電圧異常（上限）を検出した。
IO +12V Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの12V電圧異常（下限）を検出した。
IO +5V Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの5V電圧異常（上限）を検出した。
IO +5V Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの5V電圧異常（下限）を検出した。
IO +3.3V Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの3.3V電圧異常（上限）を検出した。
IO +3.3V Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの3.3V電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.5V Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.5V電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.5V Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.5V電圧異常（下限）を検出した。
IO +1.0V Alm07	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.0V電圧異常（上限）を検出した。
IO +1.0V Alm00	
	＜警告レベル＞ I/Oライザーボードの1.0V電圧異常（下限）を検出した。
1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。 2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。 3. I/Oライザーボードの取り付け状態を確認してください。 問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。	

<table>
<tr><th colspan="2">メッセージ</th></tr>
<tr><th></th><th>意　味</th></tr>
<tr><th colspan="2">対処方法</th></tr>
<tr><td colspan="2">Battery Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ リチウムバッテリ電圧異常(上限)を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">Battery Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ リチウムバッテリ電圧異常(下限)を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. ベースボード上にあるリチウムバッテリの取り付け状態を確認してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">FP Temp Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ フロントパネルで高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">FP Temp Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ フロントパネルで低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">BB Temp Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ ベースボードで高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">BB Temp Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ ベースボードで低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">SASBP Temp NCAlm</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ SASライザーボードで温度異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemA Temp Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードAで高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemA Temp Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードAで低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemB Temp Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードBで高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemB Temp Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードBで低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemC Temp Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードCで高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemC Temp Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードCで低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemD Temp Alm07</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードDで高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">MemD Temp Alm00</td></tr>
<tr><td></td><td>＜警告レベル＞ メモリボードDで低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 異常が発生しているメモリボードの取り付け状態を確認してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>メッセージ</th><th>意　味</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>PS1 Temp Alm07</td><td>＜警告レベル＞ 電源ユニット#1で高温異常を検出した。</td><td rowspan="4">1. 電源内部のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
3. 異常が発生している電源ユニットの取り付け状態を確認してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>PS1 Temp Alm00</td><td>＜警告レベル＞ 電源ユニット#1で低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>PS2 Temp Alm07</td><td>＜警告レベル＞ 電源ユニット#2で高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>PS2 Temp Alm00</td><td>＜警告レベル＞ 電源ユニット#2で低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc1 Therm % 07</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#1の高温異常を検出した。</td><td rowspan="8">1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 異常が発生しているプロセッサのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>Proc1 Therm % 00</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#1の低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc2 Therm % 07</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#2の高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc2 Therm % 00</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#2の低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc3 Therm % 07</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#3の高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc3 Therm % 00</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#3の低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc4 Therm % 07</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#4の高温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Proc4 Therm % 00</td><td>＜警告レベル＞ プロセッサ#4の低温異常を検出した。</td></tr>
<tr><td>Power Unit Alm 1</td><td>電源ユニット#1の異常が発生した。</td><td rowspan="2">1. 異常が発生している電源ユニットのACコード接続状況を確認してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>Power Unit Alm 2</td><td>電源ユニット#2の異常が発生した。</td></tr>
<tr><td>Predictive Alm 1</td><td>＜警告レベル＞ 電源ユニット#1の異常が発生した。</td><td rowspan="2">1. 異常が発生している電源ユニットのACコード接続状況を確認してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。</td></tr>
<tr><td>Predictive Alm 2</td><td>＜警告レベル＞ 電源ユニット#2の異常が発生した。</td></tr>
</table>

Windows Server 2003のエラーメッセージ

Windows Server 2003の起動後に致命的なエラー(STOPエラーやシステムエラー)が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると本装置は自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します(「導入編」の「メモリダンプ(デバッグ情報)」の設定を参照)。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。

重要

STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

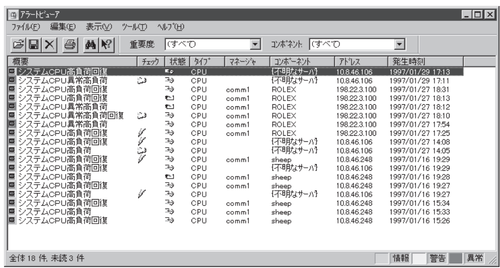
チェック

このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺装置にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、RAIDシステム管理ユーティリティなどの管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくと、何らかの障害が起きたときに管理PCや本装置に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。



各種アプリケーションのインストールや運用方法についてはソフトウェア編またはオンラインドキュメントを参照してください。
ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプで詳しく説明されています。

トラブルシューティング

本装置が思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本装置について

画面が出ない、ビープ音が鳴る

□ DIMMボードが確実に実装されていますか？
- → DIMMがしっかりとコネクタに実装されているか確認してください。
- → 同一BANK内に異なった仕様のDIMMが実装されていないか確認してください。DIMMの仕様については182ページの「DIMM」を参照してください。
- → 本装置はPOWER ONから画面が表示されるまで装置の構成によって異なりますが1－5分程度かかる場合があります。ランプ表示異常でない場合やビープ音が鳴っていない場合にはしばらく待って様子をみてください。
- → 電源オンおよびリセットしてすぐに1秒程度SASライザがブザーをならしますが異常ではありません。

電源がONにならない

□ 電源が本装置に正しく供給されていますか？
- → 電源コードが本装置の電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。
- → 本装置に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
- → 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
- → UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付のマニュアルを参照してください。
  また、本装置のBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
  <確認するメニュー: 「Server」→「AC-LINK」>

□ POWER/SLEEPスイッチを押しましたか？
- → 本装置前面にあるPOWERスイッチを押して電源をON（POWERランプ点灯）にしてください。

電源がOFFにならない・POWER/SLEEPスイッチが機能しない

□ POWER/SLEEPスイッチの機能を無効にしていませんか？
- → いったん本装置を再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
  <確認するメニュー:「Security」→「Power Switch Inhibit」>

POSTが終わらない

□ メモリが正しく搭載されていますか？
→ 最低2枚1組のDIMMが搭載されていないと動作しません。

□ 大容量のメモリを搭載していますか？
→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

□ 本装置の起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
→ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。

□ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない（または正しく動作しない）

□ ケーブルは正しく接続されていますか？
→ インタフェースケーブルや電源ケーブル（コード）が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。

□ 電源ONの順番を間違っていませんか？
→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、本装置の順に電源をONにします。

□ ドライバをインストールしていますか？
→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付のマニュアルを参照してドライバをインストールしてください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？
→ PCIデバイスを接続している場合は、本装置のBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。（PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。）
<確認するメニュー:「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「PCI Device」>
→ シリアルポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。
<確認するメニュー:「Advanced」→「I/O Device Configuration」>

キーボードやマウスが正しく機能しない

□ ケーブルは正しく接続されていますか？
→ 本装置背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
→ 本装置の電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません（USBデバイスを除く）。いったん本装置の電源をOFFにしてから正しく接続してください。

□ ドライバをインストールしていますか？

→ 使用しているOSに添付のマニュアルを参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付のマニュアルを参照して正しく設定されているかどうか確認してください。

フロッピーディスクにアクセス(読み込みまたは書き込みが)できない

□ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか？

→ フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。

□ 書き込み禁止にしていませんか？

→ フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。

□ フォーマットしていますか？

→ フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたフロッピーディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付のマニュアルを参照してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでUSBデバイスを無効にすることができます。
BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「I/O Device Configuration」→
「Legacy USB Support」

CD-ROM、DVD-ROMにアクセスできない

□ CD-RW/DVD-ROM装置のトレーに確実にセットしていますか？

→ トレーにはCD/DVD-ROMを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。

□ 本装置で使用できるCD/DVD-ROMですか？

→ Macintosh専用のCD/DVD-ROMは使用できません。

CD-Rディスクにアクセスできない

□ CD-Rディスクの表裏を間違えてセットしていませんか？

→ トレイからCD-Rディスクを取り出し、CD-Rディスクのトップレーベルを上にして、セットし直してください。

□ CD-Rディスクに汚れやキズがありませんか？

→ CD-Rディスクの表面に指紋などの汚れやキズがないことを確認してください。
汚れがある場合は、CD-Rディスクの表面をクリーニングしてください。
それでも読み込みができない場合は、アクセスが可能だった別のCD-Rディスクに入れ替えて、再度、読み込みができるかどうか確認してください。

□ CD-Rディスクがクローズされた状態になっていますか？

→ セッションをクローズした状態にするかディスクを閉じた状態にして再度、読めるかどうか確認してください。

□ 書き込みドライブに適合した書き込みソフトおよびCD-RディスクでCD-Rディスクを書き込みしましたか？
→ 書き込みドライブ、書き込みソフト、およびCD-Rディスクの組み合わせが正しくない場合、本装置のCD-RW/DVD-ROM装置で読めないことがあります。

ハードディスクドライブにアクセスできない

□ 本装置で使用できるハードディスクドライブですか？
→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？
→ ハードディスクドライブのハンドルにあるレバーで確実にロックしてください。不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません（168ページ参照）。

SCSI装置（内蔵・外付け）にアクセスできない

□ 本装置で使用できるSCSI装置ですか？
→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ SCSIコントローラ（オプション）の設定を間違えていませんか？
→ オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI装置を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付のマニュアルを参照してください。

□ SCSI装置の設定を間違えていませんか？
→ SCSI装置を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI装置に添付のマニュアルを参照してください。

PCIデバイスを増設後、正しく動作しなくなった（PCIホットプラグについては380ページを参照）

□ ボードを正しく取り付けていますか？
→ 197ページを参照して正しく取り付け直してください。

□ BIOSセットアップユーティリティのOption ROM設定が、OSブートを行うボードのスロットを除き、Disableになっていますか？
→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot n」（n: 取り付けたボードのPCIスロット番号）→「Option ROM Scan」>

□ ネットワークボードを増設し、ネットワークブートを行わない場合、BIOSセットアップユーティリティの設定で増設したSlotのOption ROM設定がDisableになっていますか？
→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot n」（n: 取り付けたボードのPCIスロット番号）→「Option ROM Scan」>

OSを起動できない

□ フロッピーディスクをセットしていませんか？
→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。

□ EXPRESSBUILDERをセットしていませんか？

→ EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。

□ OSが破損していませんか？

→ 修復プロセスを使って修復を試してください(407ページ)。

gigaドライバの速度設定を1000Mbpsから100Mbpsに変更した場合、ESMPRO/統合ビューアのデータビューアにてネットワークの詳細を参照すると、設定したスピードが不正表示(1000Mbpsから100Mbps設定時: 1000Mbpsと表示)される

→ gigaドライバの速度設定を変更した場合、表示が不正になりますが、LANドライバの動作には影響ありません。

ネットワーク上で認識されない

□ ケーブルを接続していますか？

→ 本装置背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

□ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ 本装置専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

□ 転送速度の設定を間違えていませんか？

→ 本装置に標準装備の内蔵LANコントローラ1は、100Mbps/10Mbpsの転送速度のネットワークで使用することができます。内蔵LANコントローラ2は、1000Mbps/100Mbps/10Mbpsの転送速度のネットワークで使用することができます。この転送速度の切り替えや設定はOS上から行えますが、「Auto Detect」という機能は使用せず、接続しているHubと同じ転送速度で固定に設定してください。また、接続しているHubとデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

PCIホットプラグが正しく行えない

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ PCIホットプラグを行う場合は、BIOSのSETUPユーティリティであらかじめ設定を変更しておく必要があります。

<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」→
「Hot Plug PCI Control」→
「Minimum/Middle/Maximum*」>

* 取り付けるボードによって設定値が異なります。詳細は231ページを参照してください。

PCIボードのHot Removeまたは、Hot Replaceにおいて、OSからボードのドライバを停止できない

□ Hot Removeまたは、Hot ReplaceするPCIボードを他のソフトウェアが使用していませんか？

→ Hot Removeまたは、Hot ReplaceするPCIボードを他のソフトウェアが使用しているとドライバを停止できません。該当するソフトウェアを終了させてから、PCIボードのドライバを停止させてください。Hot Replaceの場合はボードの取り付けが終了した後に、終了させたソフトウェアを起動してください。

管理PCから本装置が認識できない

□ LANケーブルが正しく接続されていますか？

→ 管理用LANポートに接続しているケーブルの状態を確認してください。ケーブルが正しく接続されていないと本装置のセンサを正しく参照することができません。
また、接続については、誤って本装置のLANコネクタに接続していないことを確認してください。

□ IPアドレスが重なっていませんか？

→ 管理用LANポートのIPアドレスは出荷時、192.168.1.1に設定されております。同一ネットワーク上に同一のIPアドレスがあると正常に認識されませんのでIPアドレスの変更を行ってください。

□ ESMPRO/ServerAgentにおいて本装置の監視設定がされていますか？

→ ESMPRO/ServerAgentの設定を変更してください。設定方法はWindowsコントロールパネルのESMPRO/ServerAgentを起動し、「システム」タブの[Express5800本体装置]ー[監視する]チェックボックスをチェックしてください。（デフォルトの設定は「監視しない」に設定されています。）設定変更後、自動的に本装置の監視が開始されます。設定変更後サーバを再起動する必要はありませんが、本装置が参照できない場合はツリーの再構築を実施してください。

□ ファイヤーウォールやゲートウェイで接続制限されていませんか？

→ ファイヤーウォールなどの接続制限に引っかかっている可能性があります。
LANクロスケーブルにて直接クライアントPCを接続し接続問題が解決する場合には、ファイヤーウォールやゲートウエイなどを再確認してください。

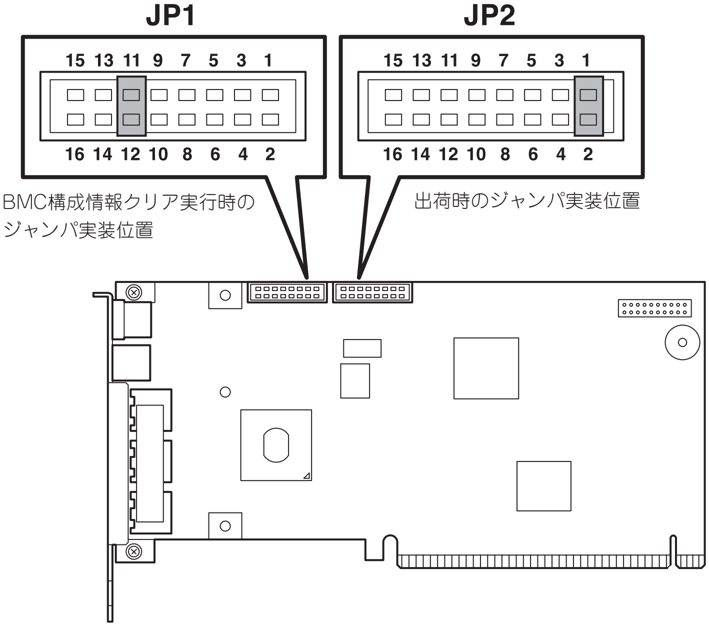
Webブラウザからリモートマネージメント機能を利用する際のログイン名/パスワードを忘れてしまった

→ ログイン名やパスワード設定を忘れてしまったときにBMCコンフィグレーションジャンパの実装位置を変更することにより、パスワードを含む各設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

重要

この操作を行うと、DianaScopeと本装置を接続するために必要なBMCの設定もクリアされます。
DianaScopeをご使用の場合には、本操作を行う前にDianaScopeと接続するための設定をFDなどに保存し、本操作後に再設定してください。
BMCの設定は、DianaScope AgentやEXPRESSBUILDERのシステムマネージメント機能で設定/保存できます。

1. 本装置の電源をOFFし、電源コードをコンセントから抜く。
2. I/Oライザボードに実装しているジャンパを以下のように変更する。



3. 電源コードを接続する。
4. 電源をOFFのまま、30秒以上持った後、電源コードをコンセントから抜く。
5. もう一度ジャンパ位置を出荷時の位置に戻します。各種設定が初期設定値に戻りますので、再度設定してください。

Windowsについて

Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベントID:　5
ソース:　storflt
種類:　警告
説明:　The Virtual Storage Filter Driver is disabled through the registry. It is inactive for all disk drives.

イベントID:　134
ソース:　Microsoft-Windows-Time-Service
種類:　警告
説明:　'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。
15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。
エラー: Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベントID:　263
ソース:　PlugPlayManager
種類:　警告
説明:　サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベントID:　7000
ソース:　Service Control Manager
種類:　エラー
説明:　Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。

イベントID:　15016
ソース:　Microsoft-Windows-HttpEvent
種類:　エラー
説明:　サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→ システム運用上、問題ありません。

Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベントID:　63
ソース:　Microsoft-Windows-WMI
種類:　警告
説明:　プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

イベントID:　1020
ソース:　EvntAgnt
種類:　エラー
説明:　レジストリ パラメータの処理中にエラーが発生しました。
拡張エージェントは終了中です。

イベントID:　1054
ソース:　Security-Licensing-SLC
種類:　警告
説明:　コンポーネント エラーです。hr=0x80049E00, [4, 3]

イベントID:　2019
ソース:　EvntAgnt
種類:　エラー
説明:　SNMP Event Log Extension Agent が正しく初期化されませんでした。

イベントID:　3001
ソース:　EvntAgnt
種類:　警告
説明:　ログ ファイルは末尾に配置されませんでした。

イベントID:　3003
ソース:　EvntAgnt
種類:　警告
説明:　ログ ファイルの終わりの配置エラー -- 一番古いログ レコードを取得できません。指定されたハンドルは 17891340 です。
GetOldestEventLogRecord からのリターン コードは 223 です。

→ システム運用上、問題ありません。

Windows Server 2008/Windows Server 2008 x64 Editionsシステム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある

イベントID:　11
ソース:　iANSMiniport
種類:　警告
説明:　次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R)PRO/1000 ～

イベントID:　13
ソース:　iANSMiniport
種類:　警告
説明:　Intel(R)PRO/1000 ～ がチームで無効化されました。

イベントID:　16
ソース:　iANSMiniport
種類:　警告
説明:　[チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

→ ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。

Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

イベントID:　10
ソース:　VDS 動的なプロバイダ
説明:　ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。
仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。
hr = 80042505

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照ください。
http://support.microsoft.com/kb/948275/ja

Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

ソース:　Microsoft-Windows-Security-Licensing-SLC
種類:　警告
イベントID:　1021
説明:　SLUINotify サービスを開始できませんでした。hr=0x80070424

→ ライセンス認証画面より、ライセンス認証を行ってください。

ソース:　Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類:　警告
イベントID:　1534
説明:　コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。
エラー コードは -2147023591 です。

→ ログオン時一度登録される場合がありますが、システム運用上問題ありません。

Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

イベントID:　3009
ソース:　LoadPerf
種類:　エラー
説明:　サービス C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini (C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。エラーコードはデータセクションの最初の DWORD です。

→ システム運用上、問題ありません。

Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

イベントID:　10016
ソース:　DCOM
種類:　エラー
説明:　コンピュータ既定権限の設定では、CLSID{555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化アクセス許可を「ユーザーNT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) 」に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。

→ システム運用上、問題ありません。

Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

イベントID:　5603
ソース:　WinMgmt
種類:　警告
説明:　プロバイダ Rsop Planning Mode Provider は WMI 名前空間 root¥RSOP に登録されましたが、HostingModel プロパティが指定されませんでした。このプロバイダは LocalSystem アカウントで実行されます。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録のHostingModel プロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→ システム運用上、問題ありません。

Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

イベントID:　63
ソース:　WinMgmt
種類:　警告
説明:
- プロバイダ HiPerfCooker_v1 は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合は セキュリティ違反が起こる可能性があります。
- プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合は セキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。

Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース：　Service Control Manager
種類：　エラー
イベントID：　7011
説明：　Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト(30000ミリ秒) になりました。

→ 再起動後にこのイベントが登録されていない場合、問題ありません。

Telnetサービスがインストールされていない

→ コンピュータ名を14文字以下にして、<Telnetサービスのインストール手順>に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnetサービスのインストール手順>

1. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。
3. スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧にTelnetサービスが登録されていることを確認する。

＊ Telnetサービスのインストール後は、コンピュータ名を15文字以上に設定しても問題ありません。

Windows Server 2003 R2の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース：　IPMIDRV
種類：　エラー
イベントID：　1001
説明：　IPMIデバイスドライバは、IPMI BMCデバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしました。このドライバは、SMBIOSのType38レコードを検索できることでIPMI BMCを検出しようとしましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOSのType 38 レコードが見つかっている場合は、イベントのDump Dateフィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。
詳細な内容については、下記サイトにある「Windows Server 2003 R2で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」を参照してください。

［NEC 8番街：テクニカルインフォメーション］
http://www.express.nec.co.jp/care/techinfo/techinfo.html

Windows Server 2003 R2をインストール中、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストールする前にサービスパックを適用した

→ Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストール後、「システムのアップデート」にてサービスパックを再適用してください。

以下のイベントログが記録される

イベントID:　4
ソース:　E100B
種類:　警告
メッセージ:　Adapter Intel(R) PRO/100 Network Connection: Adapter Link Down
該当装置:　<本装置のモデル名>
該当LAN:　100BASE

→ 本装置のLANポートにネットワークケーブルを接続していない場合に、本イベントログが登録される場合がありますが、LANドライバの動作には影響ありません。ネットワークケーブルを正しく接続すると登録されなくなります。また、100BASEのLANポートを使用しない場合は、デバイスマネージャ等から100BASEのLANを無効に設定するか、BIOSの設定にて、Disableに設定を変更することにより、登録されなくなります。

以下のメッセージが表示され、ログインできなくなった

→ Windows Server 2003では、Windows製品のライセンス認証手続きを完了しないまま使用していると、下記のメッセージが表示されます。[はい]をえらんでWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。

> Windows 製品のライセンス認証
>
> 続行する前にWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。
> 手続きが完了するまでログオンすることはできません。
> 今すぐ手続きを実行しますか？
>
> [はい (Y)] [いいえ(N)] [キャンセル]

Windows Server 2003 の運用中、イベントビューアに下記内容のEvntAgntの警告が登録される場合がある

イベントID:　1003
説明:　TraceFileName パラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレースファイルは です

イベントID:　1015
説明:　TraceLevel パラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレースレベルは32です。

→ システム運用上、問題ありません。

Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに次のような内容の警告が記録される

> ページング操作中にデバイス ¥Device¥CdRom0上でエラーが検出されました。

→ システムの運用上、問題ありません。

Windowsのインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

□ 複数のハードディスクドライブを接続したり、RAIDコントローラ配下に複数のシステムドライブを作成してインストールを行っていませんか？
- → OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。
- → RAIDコントローラ配下のハードディスクドライブにインストールする場合は、システムドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールを行ってください。複数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、RAIDシステムのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに以下のログが出力される

サーバはトランスポート¥Device¥NetBT_Tcpip_{.....}にバインドできませんでした。

トランスポートが初期アドレスのオープンを拒否したため、初期化に失敗しました。

ネットワークの別のコンピュータが同じ名前を使用しているため、サーバーはトランスポート¥Device¥NetbiosSmbにバインドできませんでした。サーバーを起動できませんでした。

→ ネットワークドライバの更新時に発生します。システムの運用上、問題ありません。

Windowsのインストールを正しくできない

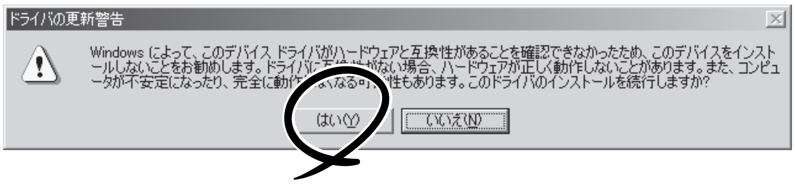
□ インストール時の注意事項を確認していますか?

→ 42ページ(または、オンラインドキュメント)を参照してください。

Windowsのインストール後にデバイス マネージャで日本語106/109 キーボードが英語101/102 キーボードと認識される

→ デバイス マネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。
   101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード
4. [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
5. 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2キーボード(106/109キー)を選択して[次へ]をクリックする。
6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして操作を続行する。



Windowsの動作が不安定

□ システムのアップデートを行いましたか?

→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。システムのアップデート手順は、EXPRESSBUILDERに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドを参照してください。

障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

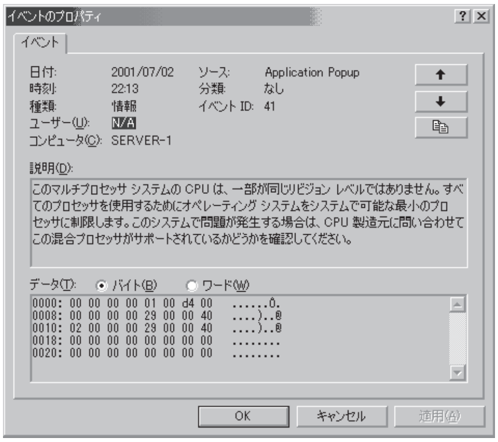
→ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。

ブルー画面で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン:POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

プロセッサを増設後、起動するたびにイベントログが表示される

→ オプションのプロセッサの中には異なるレビジョン(ステッピング)のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのプロセッサを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに右図のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



[システムプロパティ]の[全般]タブの中でプロセッサの名称がずれて表示される

→ 本装置の動作には問題ありません。

運用・保守編

Windows Server 2003/Windows Server 2003 x64 Editions システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある

イベントID:　11
ソース:　iANSMiniport
種類:　警告
分類:　なし
説明:　次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R) ～

イベントID:　13
ソース:　iANSMiniport
種類:　警告
分類:　なし
説明:　Intel(R) ～ がチームで無効化されました。

イベントID:　16
ソース:　iANSMiniport
種類:　エラー
分類:　なし
説明:　[チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。
ネットワークの接続が失われました。

イベントID:　22
ソース:　iANSMiniport
種類:　警告
分類:　なし
説明:　プライマリアダプタはプローブを検出しませんでした。
Intel(R) ～ 原因でチームが分割されている可能性があります。

→ ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。

システム時刻がずれる

→ NTP (Network Time Protocol) サーバなど時刻を調整するサーバを利用しない場合、実時刻に対してシステム時刻がずれることがあります。この場合は、NTP サーバを利用するか、Windows Time サービスを無効に設定してください。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERから本装置を起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？
→ POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

□ BIOSのセットアップを間違えていませんか？
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティで光ディスクドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー: 「Boot」>

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDERの対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。

この他にもシームレスセットアップやシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

RAIDシステムに関するセットアップ中に障害を検出するとRAIDシステムのセットアップをスキップします。このようなメッセージが現れた場合は、RAIDコントローラまたはハードディスクドライブに障害が発生している可能性があります。保守サービス会社に保守を依頼してください。

□ Boot selection画面で『Os installation***default***』を選択した場合に以下のようなメッセージが表示されます。

メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因
EXPRESSBUILDERは、このコンピュータを動作対象としていません。 正しいバージョンをセットして「OK」ボタンを押してください。 （「OK」ボタンを押すと再起動します）	EXPRESSBUILDERの対象マシンではありません。 対象マシンで実行してください。
マザーボード上のハードウェアに関する情報を取得できませんでした。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 （「OK」ボタンを押すと再起動します）	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDERが装置固有情報を見つけられない場合に表示されます。
マザーボード上のハードウェアに関する情報が不正です。対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 （マザーボード交換直後にこのエラーが出たときは、「Maintenance Utillity」を使ってハードウェアの情報を正しく設定してください）。	

シームレスセットアップについて

<Windows>

指定したパーティションサイズよりも小さい容量のハードディスクドライブを使用してインストールしようとしたときに以下のメッセージが表示された

パーティションの作成が失敗しました。
処理を続行できません。終了します。

OK

→ 処理を続行できません。接続されているハードディスク容量以下のパーティションサイズを指定し、再度セットアップを行なってください。

ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている

□ ホスト名に2バイト文字を使用していませんか？

→ Windows Server 2003の場合、ホスト名に2バイト文字を使用するとドメインの参加に失敗します。失敗した場合は、コントロールパネル→システムからドメインの参加設定を行ってください。

→ LANケーブルが接続されていなかった場合、ドメイン参加設定ではなく、ワークグループ設定でインストールされます。OS起動後に、ドメイン参加を行ってください。

シームレスセットアップ中、外付けハードディスクの中身が消去された

□ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続していませんか？

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを取り外し、シームレスセットアップを行ってください。

ネットワークの接続名が『Local Area Connection』になっている

→ シームレスセットアップの仕様です。
ネットワーク接続名を変更する場合は、シームレスセットアップ完了後に実施してください。

指定したサイズより小さい値でパーティションが作成された

→ シームレスセットアップを行った場合、指定した値より8MB程度小さいサイズでパーティションが作成される場合があります。運用上、問題はありません。

シームレスセットアップでWindows Server 2003をインストールするとシステムドライブのアクセス許可の設定が標準の設定と異なる

→ シームレスセットアップを使用して Windows Server 2003をインストールするとシステムドライブのアクセス許可の設定が標準の設定と異なる場合があります。詳細はマイクロソフトのサポート技術情報を参照してください。

URL：http://support.microsoft.com/kb/957988/ja

文書番号：957988

<Linux>

シームレスセットアップ・インストールキーが、どこに記載されているか見つからない

→ Linuxサービスセット同梱の「はじめにお読みください」に記載されています。

「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」、「Red Hat Enterprise Linux AS 4」のインストールディスク(「Red Hat Enterprise Linux 5.2 Server (x86) Install Disc 1～5」など)がLinuxサービスセットの中に見つからない

□ BTO(工場組み込み出荷)時には、インストールディスクがISOイメージとしてLinux Recoveryパーティションに格納されています。シームレスセットアップで「ハードディスクからのインストール」を選択し再インストールする場合は、格納されているISOイメージを使用するため、インストールディスクの作成の手間が省けます。

→ インストールディスクの入手方法は、「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。
「Linuxメディアキット」を購入されたお客様は、インストールディスクが同梱されていますので、そちらをご利用ください。

BTO(工場組み込み出荷)時のハードディスクに不明なパーティション(タイプvfat)が確保されている

□ LinuxをBTO(工場組み込み出荷)で購入された場合、Linuxの再インストール用にLinux Recovery パーティション(約5GB)が確保されています。Linux Recoveryパーティションには、再インストールに必要なインストールディスクのISOイメージやドライバ、アプリケーションなどが格納されています。

→ システム運用時にLinux Recoveryパーティションが必要ない場合、Linux Recoveryパーティションを削除することができます。再インストール時に必要になった場合には、「EXPRESSBUILDER」DVDからLinux Recoveryパーティションを作成することができます。なお、Linux Recoverパーティションを作成するにはインストールディスクが必要です。

既存のLinuxのパーティションを残したままシームレスセットアップできない

→ シームレスセットアップでは、再インストールを対象にしています。そのため、既存のLinuxパーティションを残したまま再インストールはできません。必要なデータをバックアップし、シームレスセットアップを行ってください。

BTO(工場組み込み出荷)時以外のパーティション構成でシームレスセットアップできない

□ シームレスセットアップでは、パーティションレイアウトとして「BTO(工場組み込み出荷)時パターン1～3」および「手動で設定する」を選択することができます。

→ シームレスセットアップ時にBTO(工場組み込み出荷)時以外のパーティション構成でインストールするには、STEP7(87ページの手順10を参照)の[パーティション・パッケージの設定]画面で「手動で設定する」を選択してください。その後、画面の指示に従い操作を行い、インストール開始後表示されるLinuxの標準インストーラのパーティション設定画面(テキストモード)でパーティションを設定してください。

Linux Recoveryパーティションをインストール時に削除できない

→ シームレスセットアップのSTEP6(87ページの手順9を参照)の[インストール方法の選択]画面で「CD/DVDからのインストール」を選択するか、マニュアルセットアップでインストールしてください。

シームレスセットアップ時にインストールされるパッケージを知りたい

□ シームレスセットアップでは、BTO(工場組み込み出荷)時と同じパッケージ構成でインストールされます。

→ BTO(工場組み込み出荷)時にインストールされるパッケージは、「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。
またはパッケージの選択画面(87ページの手順10を参照)で「こちら」をクリックすると、BTO(工場組み込み出荷)時のパッケージ一覧が表示されます。

シームレスセットアップで[実行する]ボタンをクリックし、再起動画面で再起動するとLinux標準インストーラが起動し言語やキーボード設定を求められる

→ インストールディスクの1枚目を挿入したまま再起動したためです。シームレスセットアップの[実行する]ボタンをクリック後、最初の再起動時にはすべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動してください。
すべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動しても、言語やキーボードの設定画面になる場合は、「セットアップ前の確認事項について」(82ページ)を参照し、シームレスセットアップが可能なハードウェア構成になっているかを確認してください。

シームレスセットアップで[実行する]ボタンをクリックし、再起動画面で再起動するとLinux標準インストーラが起動しない

→ 「EXPRESSBUILDER」DVDまたはフロッピーディスクが挿入されたまま再起動された可能性があります。シームレスセットアップの[実行する]ボタンをクリック後、最初の再起動時にはすべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動してください。
すべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動しても、Linux標準インストーラが起動しない場合、オプションボードなどにハードディスクが接続され、ブートするハードディスクがBTO(工場組み込み出荷)時と異なる可能性があります。
BTO(工場組み込み出荷)時と同じ構成に戻し、再度シームレスセットアップを行ってください。

シームレスセットアップでインストール時に、「Do you have a driver disk? 」というメッセージが表示される

□ Linux用ドライバディスクを要求するメッセージです。事前にLinux用ドライバディスクを用意し、上記メッセージが表示された場合Linux用ドライバディスクを挿入しインストールを継続してください。

→ 「EXPRESSBUILDER」のトップメニューの「Linux用ドライバディスクを作成する」で作成するか、シームレスセットアップ中にLinux用ドライバディスクを作成することができます。または、「オートランで起動するメニュー」(321ページ)から作成することもできます。

シームレスセットアップでインストール時に、「CDが見つかりません。」または「CD Not Found」というメッセージが表示される

□ インストールディスクを要求するメッセージです。

→ インストールディスクの1枚目を挿入し、インストールを継続してください。

シームレスセットアップでインストール後、次のような現象が発生する

1. X Window Systemが起動しない(startxコマンドが異常終了する)。

2. コンソール端末に表示されるメッセージが文字化けする。

3. X Window Systemは起動するが、キーボード設定が英字配列になっている。

4. ネットワーク設定が行われていない

→ Linuxサービスセットに添付される「初期設定および関連情報について」を参照し、Linuxの初期導入設定を行ってください。

フロッピーディスクドライブの指定で"sda"を選択したが、エラーメッセージが表示される

→ OSが認識するフロッピーディスクドライブのデバイス名が"sda"と異なっている可能性があります。他のデバイス(通常はリストの一番最後のデバイス名)を選択してください。

LANポート(コネクタ)の番号と、OSの認識するNICの順序が異なる

□ LANポートの番号とOSが認識するNICの順序が異なります。システムBIOSのNICの認識順とOSのNICの認識順が異なるため、本体装置のLANポートは以下の順序で認識され、デバイス名が付与されます。

デバイス名	ポート番号
eth0	3
eth1	4
eth2	1
eth3	2

→ LANによる通信ができない場合は、LANポートの番号とOSが認識しているNICのデバイス名を上記の表で確認し、正しいLANポートに接続してください。

LinuxでWake on Lan(WOL)機能が使用できない

□ Linuxで使用するLANポート#3, #4の制御ドライバは、WOL機能を1ポート(LANポート#3)のみに制限しています。そのため、LANポート#4(「2 ハードウェア編」97ページの「装置背面」を参照)では、WOL機能が動作しません。

→ Wake on Lan機能を使用する場合は、LANポート#3にLANケーブルを接続してください。

運用・保守編

オートランメニューについて

オンラインドキュメントが読めない

□ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？

→ オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。

□ 使用しているOSはWindows XP SP2ですか？

→ SP2にてオンラインドキュメントを表示しようとすると、ブラウザ上に以下のような情報バーが表示されることがあります。

「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorerで制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください...」

この場合、以下の手順にてドキュメントを表示させてください。

1. 情報バーをクリックする。
   ショートカットメニューが現れます。
2. ショートカットメニューから、「ブロックされているコンテンツを許可」を選択する。
   「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。
3. ダイアログボックスにて「はい」を選択する。

メニューが表示されない

□ ご使用のシステムは、Windows XP以降またはWindows 2003以降ですか？

→ 本プログラムは、Windows XP/Windows 2003より前のバージョンでは動作しません。

→ Windows2000上で動作させるためには、あらかじめIE6.0をセットアップしておいてください。

□ <Shift>キーを押していませんか？

→ <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。

□ システムの状態は問題ありませんか？

→ システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイ コンピュータ」を選択し、セットしたDVDドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

メニューが英語で表示される

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、メニューは英語で表示されます。日本語メニューを起動させたい場合は、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

メニュー項目がグレイ表示される

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ Administrator権限のないユーザーでログインした場合や、本装置以外の装置上で実行した場合など、ご使用の環境がソフトウェアのインストール環境に合致しないとき、メニュー項目がグレイ表示されます。適切な装置、ユーザーにてログイン後、再度実行してください。

RAIDシステム、RAIDコントローラについて

RAIDシステムを構成している本装置がうまく動作しない時や、管理ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法に従った操作をしてください。

OSをインストールできない

□ RAIDコントローラのコンフィグレーションを行いましたか?
→ WebBIOSを使って正しくコンフィグレーションしてください。

OSを起動できない

□ RAIDコントローラのBIOS設定が変更されていませんか?
→ WebBIOSを使って正しく設定してください。

□ POSTで、RAIDコントローラを認識していますか?
→ RAIDコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をONにしてください。

→ 正しく接続していても認識されない場合は、RAIDコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

リビルドができない

□ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか?
→ 故障したハードディスクドライブと同じ容量のディスクを使用してください。

□ 論理ドライブが、RAID0ではありませんか?
→ RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。FAILになったハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、イニシャライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

オートリビルドができない

□ ハードディスクドライブを交換(ホットスワップ)するときに十分な時間を空けましたか?
→ オートリビルドを機能させるためには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまでの間に60秒以上の時間を空けてください。

ハードディスクドライブがFailになった

→ 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

整合性チェックが実行できない

□ 論理ドライブが「Degraded」になっていませんか?
→ 故障しているハードディスクドライブを交換し、リビルドを実施してください。

□ 論理ドライブのRAIDレベルがRAID0ではありませんか?
→ RAID0は冗長性がないため整合性チェックができません。

オンボードのRAIDコントローラ(Mega RAID ROMB)用バッテリについて

1. バッテリを交換した後は、充電ならびに、放充電が行われます。このサイクルを実施している期間、POST中に次のメッセージが出力される場合がありますが運用上の問題はありません。

   Your battery is bad or missing, and you have VDs configured for write-back mode. Because the battery is not usable, these VDs will actually run in write-through mode until the battery is replaced.
   The following VDs are affected : xx,xx,xx,xx,xx,xx

2. POST中に以下のメッセージが表示される。

   The battery hardware is missing or malfunctioning, or the battery is unplugged. If you continue to boot the system, the battery-backed cache will not function. Please contact technical support for assistance.
   Press "D" to disable this warning (if your controller does not have abattery).

   オンボードのRAIDコントローラ(MegaRAID ROMB)のバッテリの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

3. オンボードのRAIDコントローラ(MegaRAID ROMB)のバッテリが認識されない、またはPOSTにて以下のメッセージが表示される。

   Your battery is bad or missing, and you have VDs configured for write-back mode. Because the battery is not usable, these VDs will actually run in write-through mode until the battery is replaced.
   The following VDs are affected : xx
   Press any key to continue.

   □ バッテリの充電率が低い可能性があります。
   → バッテリを充電するために数時間システムを通電した後、再度POSTメッセージを確認してください。
   WebBIOSを使用してバッテリステータス画面で確認することができます。
   上記の処置を実施しても認識されない場合は、バッテリの故障または寿命の可能性があります。バッテリの製品寿命は約2年です。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

ExpressPicnicについて

ExpressPicnicが起動できない

→ ExpressPicnicは、「Microsoft® HTML Application host」で実行する必要があります。
起動しない場合は、下記の手順で「Microsoft® HTML Application host」の関連付けを行ってください。

(1) Windowsのスタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択する。

(2) %windir%¥system32¥mshta.exe /register と入力する。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)について

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows版)インストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerAgent(Linux版)について

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent Ver.4.2(Linux版)ユーザーズガイド」、「ESMPRO/ServerAgent(Linux版)インストレーションガイド」で詳しい使い方やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerManagerについて

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」

.NET Framework Version 2.0 以降をインストール時に、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる旨のメッセージが表示される

→ 情報提供ツール「NECからのお知らせ」をインストールしている環境で.NET Framework Version 2.0 以降をインストールする場合、事前に情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる必要があります。情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させた後、改めて.NET Frameworkのインストールを開始してください。.NET Framework インストール終了後、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を起動させてください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。

重要

- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

イベントログの採取

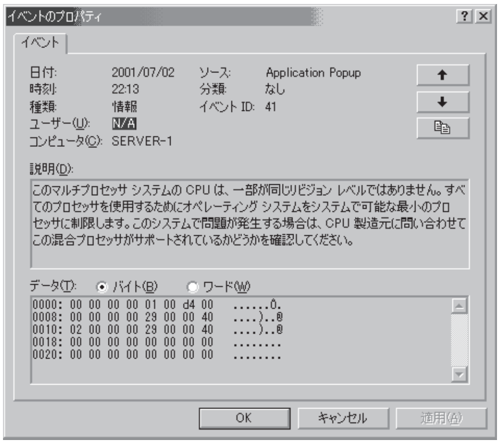
本装置に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

重要

STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

ヒント

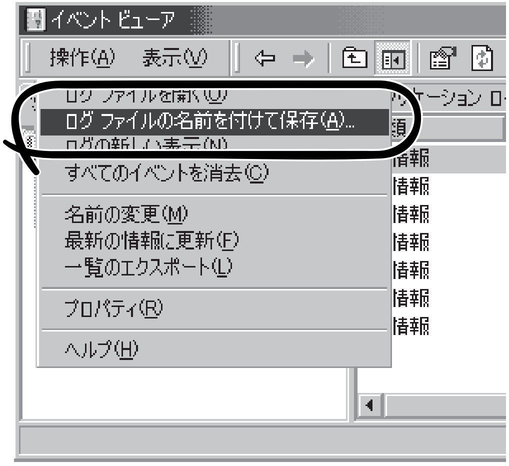
オプションのプロセッサの中には異なるレビジョン(ステッピング)のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのプロセッサを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



1. コントロールパネルから[管理ツール]ー[イベントビューア]をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

   [アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. ［操作］メニューの［ログファイルの名前を付けて保存］コマンドをクリックする。



4. ［ファイル名］ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。

5. ［ファイルの種類］リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、［OK］をクリックする。

詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

本装置のハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。

重要 **STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。**

1. スタートメニューの［設定］をポイントし、［コントロールパネル］をクリックする。

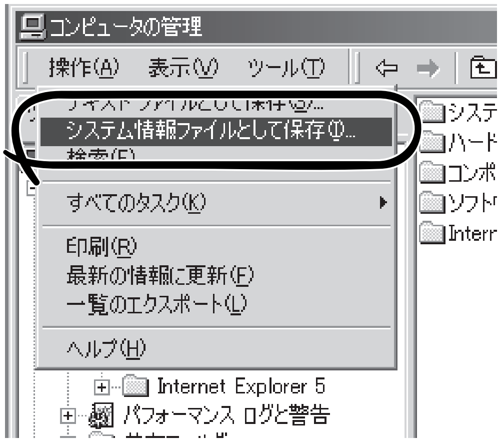
   ［コントロールパネル］ダイアログボックスが表示されます。

2. ［管理ツール］アイコンをダブルクリックし、［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックする。

   ［コンピュータの管理］ダイアログボックスが表示されます。

3. ［システムツール］ー［システム情報］をクリックする。

4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。



5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。

6. [保存]をクリックする。

ユーザーモードプロセスダンプ(ワトソン博士の診断情報)の採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。
詳しくは「導入編」の「ユーザーモードプロセスダンプの取得方法」(71ページ)を参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」を参照してください。

重要

- **保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。**
- **障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。**

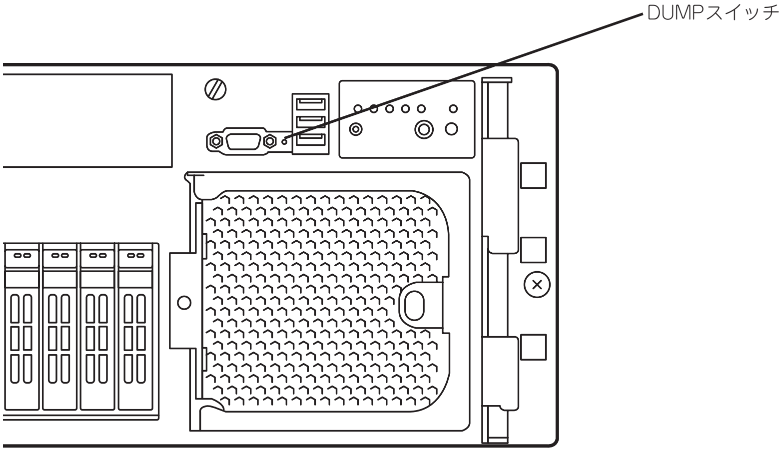
採取のための準備

DUMPスイッチを押してダンプを実行した後に本装置をリセットできなくなる場合があります。この場合、強制シャットダウン(309ページ参照)で本装置を強制的にリセットしなければならなくなりますが、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の「Security」メニューの「Power Switch Inhibit」を「Enabled」に設定しておくと、POWERスイッチの機能が無効になるため、強制シャットダウンができなくなります。
万一の場合、強制シャットダウンで本装置をリセットできるように次の手順に従って本装置の設定を変更しておいてください。

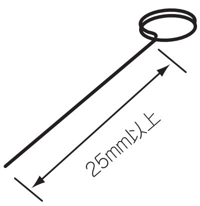
1. 本装置の電源をONにして、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を起動する(216ページ参照)。
2. 「Security」メニューの「Power Switch Inhibit」を「Disabled」に設定する。
3. 設定内容を保存して、SETUPを終了する。

メモリダンプの採取

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。
スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(プロセッサがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。



重要 つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。また、ピンの長さが25mm以上のものを使ってください。



IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

1. スタートメニューから[プログラム]ー[ESMPRO ServerAgent]ー[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

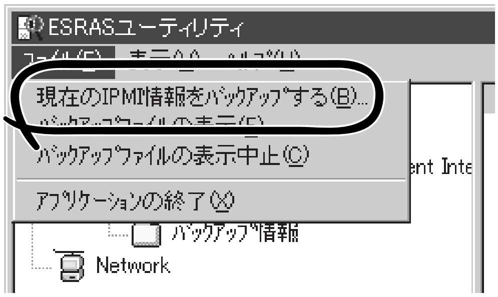
   [ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

   データが表示されれば取得ができたことになります。

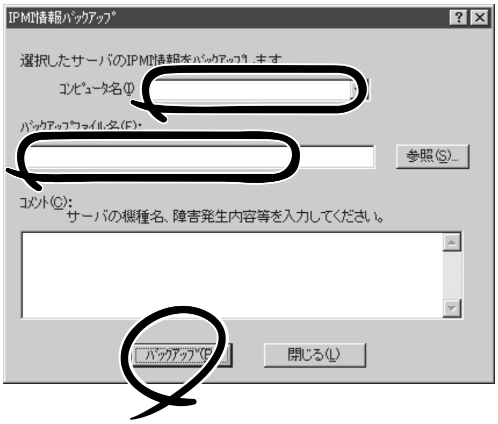


3. [ファイル]メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。

5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。



システムの修復

－Windows Server 2008の場合－

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、システム回復オプションを使用してシステムの修復を行うことができます。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者のもと実施してください。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

－Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003の場合－

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

重要

- **システムの修復後、必ずシステムをアップデートしてください。また、Windowsの場合は、システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくはEXPRESSBUILDER に格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドの「システムのアップデート」、「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してください。**
- **ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。**

移動と保管

本装置を移動・保管するときは次の手順に従ってください。

⚠ 注意

本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 二人以下で持ち上げない
- 指定以外の場所に設置しない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

重要

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクドライブを内蔵している場合はハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して本装置を移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本装置を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。
本装置を保管する場合は、保管環境条件(温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%)を守って保管してください(ただし、結露しないこと)。

1. フロッピーディスク、CD/DVDをセットしている場合は本装置から取り出す。
2. 本装置の電源をOFF(POWERランプ消灯)にする。
3. 本装置の電源コードをコンセントから抜く。
4. 本装置に接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. 122ページを参照してラックから取り出す。
6. 3人以上で本装置の底面を持って運ぶ。

重要

本装置の前面のフロントベゼルを持って、持ち上げないでください。フロントベゼルが外れて落下し、けがをしたり本装置を破損してしまいます。

7. 本装置に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。

輸送後や保管後、本装置を再び運用する場合は、運用前にシステム時計の確認・調整をしてください。システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。本装置、および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤動作や故障の原因となります。本装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

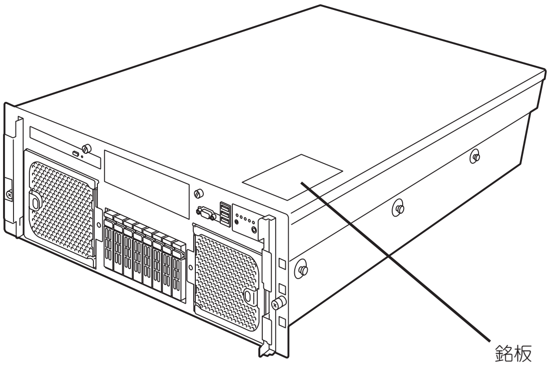
本装置の保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。

重要

- NEC製以外(サードパーティ)の製品またはNECが認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた本装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本装置に、製品の形式、SERIAL No.(号機番号)、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の号機番号と保証書の保証番号が一致していませんと、装置が保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。



バッテリの保証について

本装置には、内蔵の時計用とオンボードのRAIDコントローラ(MegaRAID ROMB)用の2種類のバッテリが内蔵されています。

ー 内蔵の時計用のバッテリ

本バッテリの保証期間は5年です。時計が停止したり、遅れるようになった場合は、保守サービス会社に連絡してください。

ー オンボードのRAIDコントローラ(MegaRAID ROMB)用のバッテリ

本バッテリの寿命は、使用環境および運用条件によって異なりますが、おおむね2年もしくは、充電回数が約500回です。
バッテリは有償定期交換部品となっております。バッテリに表示されている日付より2年を経過した場合には、販売店または保守サービス会社に連絡してください。有償にて交換いたします。

修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

① 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。

② 「障害時の対処(355ページ)」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。

③ 本装置を操作するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。

④ 市販のウィルス検出プログラムなどで本装置をチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際に本装置のランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録B「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。
なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。

重要　**本装置は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。**

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

□ 保証書

□ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ

□ 障害情報*

□ 本装置・周辺装置の記録

* 402ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。

保守用部品について

本装置の保守用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスはNECの保守サービス会社、およびNECが認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。
なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。 この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。 さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

NECでは、お客様に合わせてさまざまな契約保守サービスを用意しております。サービスの詳細については、「NEC 8番街(http://nec8.com/)」の「サポート情報」をご覧ください。

重要

- **サービスを受けるためには事前の契約が必要です。**
- **サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。**

情報サービスについて

Express5800シリーズに関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※　電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター　　TEL. 03-3455-5800(代表)

受付時間／9:00〜12:00、13:00〜17:00　月曜日〜金曜日(祝祭日を除く)

お客様の本装置を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。

※　電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター　　TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00〜17:00　月曜日〜金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

http://nec8.com/

『NEC 8番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

http://club.express.nec.co.jp/

『Club Express』：『Club Express会員』への登録をご案内しています。Express5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスの詳細をご紹介しています。

http://www.fielding.co.jp/

NECフィールディング(株)ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。